

「“ふじのくに” 士民協働施策レビュー」 施策の改善提案の概要

10月11日、10月31日、11月7日に開催した「“ふじのくに” 士民協働施策レビュー」において、県民評価者の皆様からいただいた施策の改善提案の概要は以下のとおり。

いただいた改善提案は、具体的な対応を検討した上で、施策等への反映を図る。

施策への反映状況は、令和3年3月に公表する予定。

1 施策改善提案概要

施策	主な改善提案
安全な消費生活の推進	<ul style="list-style-type: none">全ての県民が適切な消費行動が取れるよう、世代に即した消費者教育を強化する必要がある。県民に「エンカル消費」とは何かを考えてもらうよう、消費者団体・事業者等と連携した取組を積極的に進める必要がある。
社会的養護が必要な子どもへの支援の充実	<ul style="list-style-type: none">虐待の発生原因について、多面的・複合的な分析を進め、具体的な取組に繋げる必要がある。男性の子育てへの主体的な参画や企業の育休取得等への理解促進など、子どもの健やかな成長を支える環境を整えるとともに、社会全体で子供を見守り・育てる気運を醸成する必要がある。
環境に配慮した快適な社会の形成	<ul style="list-style-type: none">ごみの分別や温暖化対策の取組を促進するには、年代に合わせた教育や情報発信の充実等により、県民意識の啓発を推進する必要がある。ごみの分別・処理について、自治体ごとに地域間格差があり、これまで以上に運営主体である市町や事業者への支援を強化する必要がある。
地域資源を活かした文化芸術の振興	<ul style="list-style-type: none">静岡の地域資源を活かした文化活動の取組が十分とはいえず、例えば、富士山と文化芸術の結び付けや地域の祭など、地域に密着した文化活動をさらに広める必要がある。県民が文化芸術に興味を持つために、子どもへのアプローチを一層強化することが必要であり、静岡県舞台芸術センター（SPAC）の中高校生鑑賞事業を拡大するなど、子どもや若者が文化芸術活動に触れる場を創出すべきである。
新たな成長産業の育成	<ul style="list-style-type: none">地域が持つ特色やノウハウを活用し、本県ならではの新たな産業の育成や、付加価値化に取り組むとともに、先端技術を有する企業の誘致や他産業とのマッチングを推進する必要がある。医療分野はコロナ禍を契機に更に需要が高まる産業であり、医薬品・医療機器合計生産額全国1位である強みを更に推進するため、関連産業の集積や他産業との連携など、複合的に強化することが必要である。
豊かな自然、文化、歴史に根ざした美しい景観の形成	<ul style="list-style-type: none">教育機関、各自治体等とも連携し、多様な手法を用いて様々な世代に景観の情報を伝えるよう情報発信を強化する必要がある。観光と住民の生活が両立できるよう市町等関係機関と連携した取組を推進する必要がある。

※各施策の改善提案意見の詳細はホームページを参照

(<https://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-030/review.html>)



2 県民評価者年代別内訳

～20代	30代	40代	50代	60代～	計
52人 (41%)	4人 (3%)	15人 (12%)	18人 (14%)	37人 (30%)	126人 (100%)